

事業報告

2021年4月1日より2022年3月31日までの事業概略をご報告します。

当協会の概況

2021年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大という厳しい環境にありましたが、さまざまに工夫を凝らし、当協会の主な事業である育英事業、展覧会事業、パブリックアートの普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。

育英事業の一つである「国際瀧富士美術賞」は2021年度も授賞式を中止しましたが、国内受賞学生とのオンライン交流会を実施して受賞を祝うと同時に学生同士の交流を図りました。パブリックアート普及事業においては、徳島阿波おどり空港のステンドグラス作品など2作品を設置し、2022年で50年目を迎えるパブリックアートの設置数は徳島阿波おどり空港で550作品となりました。

本年度の活動内容を項目ごとにご説明します。

I. 公益事業

1. 育英事業

(1) 瀧富士基金

日本の将来を担う若者を育てるための「瀧富士基金」第55期奨学生を募集しました。8月26日の選考委員会での厳正な審査の結果、28人の奨学生が新たに決まりました。また奨学生のうち特に成績優秀な学生の中から、奨学金の全額、または一部の返還を免除する給費生9人を選びました。このほか奨学金を増額する特待生には10人が選ばれました。

基金創設以来の受給者は1951人、給貸与総額は22億9000万円で、うち給費生は264人で2.9億円となりました。

(2) 国際瀧富士美術賞

42年目に入った「国際瀧富士美術賞」の第一次審査を7月19日に、第二次審査を9月27日に開催し、厳正な審査の結果、国内13美大16人、海

外6カ国7美大7人の計23人の受賞者を選びました。国内最優秀者のグランプリには女子美術大学の井手元咲良さん、海外最優秀者の国際グランプリには米国アートセンターカレッジオブデザインのウェイジ・ソンさんが受賞しました。授賞式はコロナ感染予防のために中止し、12月7日に国内受賞学生のオンライン交流会を実施しました。9大学11名の学生が参加し、受賞作品の説明とともに卒業制作や今後の目標を紹介し、学生同士で意見交換するなど和やかな交流の場となりました。

2. 展覧会事業

(1) 交通総合文化展

第68回「交通総合文化展2021」を「鉄道の日」(10月14日)の関連事業として、10月27日(水)から11月1日(月)までの6日間、JR上野駅の中央改札口外コンコースの特設会場で開催しました。

本年度も写真(新日本観光写真)と俳句の2部門を全国公募し、コロナ前の応募を上回る、写真約1000点、俳句約5000点の応募があり、審査を経て写真34点、俳句16点の上位作品を会場で展示しました。

また現代日本を代表する日本画、洋画、書の作家グループ「潮瀧会」による24点の新作を展示し、「パブリックアート普及活動特別展」では協会が最近設置したパブリックアート作品を紹介したほか、上野駅周辺に設置したパブリックアート6作品を動画で紹介し、実際に足を運んで頂けるように案内地図も配布しました。

また1%フォー・アートの理解に向けて先行している台湾の事例を街の作品写真と共に展示し、招待作家のコーナーでは国際瀧富士美術賞の若手受賞者シュ・ニンさん(第38期)に陶板を使ったパブリックアート作品を制作して頂きました。

今回もコロナ感染予防も徹底して運営しましたが、会場には多くの方が来場され、コロナ禍で出向く機会が減っている中で気軽に文化芸術に触れる良い機会であるなど、アンケート調査で高評価をいただきました。

(2) 「原宿ファッションジョイボード文化展」

JR原宿駅の大型看板12面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「ITを守る、育てる、“頼れるIT社会”の実現を目指して」キャンペーンを前年度に引き続き開催しました。

3. パブリックアート普及・振興事業

(1)パブリックアートの制作・設置

2021 年度は一般財団法人日本宝くじ協会の社会貢献広報事業の助成を受けた作品は1カ所、さらに東京メトロ日本橋駅のステンドグラス作品を加えて2作品設置しました。当協会は1972年からパブリックアート制作・設置を進め、2022年は50年目となります。設置してきたパブリックアート作品は2022年3月末で550点となりました。

宝くじ協会の助成を受けた作品は以下です。

① ステンドグラス「ZOMEKI ー悠久の二拍子ー」

設置場所：徳島阿波おどり空港旅客ターミナルビル3階出発ロビー

原画作家：漫画家 竹宮恵子

公開日：2022年3月7日

寄贈先：徳島空港ビル株式会社

その他の作品は以下です。

② ステンドグラス「日本橋南詰盛況乃図」

設置場所：東京メトロ銀座線日本橋駅

原画作家：山口 晃

公開日：2021年7月1日

(2) パブリックアート普及のためのPR・広報活動

①小中学生にパブリックアートを理解してもらうために、産経こどもニュースを活用して、全国2000校の学校掲示板に設置してきたパブリックアートに関する話題を3回シリーズで掲出しました。

②上野駅での交通総合文化展で「パブリックアート普及活動特別展」を開催し、パブリックアートの意義と役割を知ってもらうとともに、その普及、振興に努めました。

③国際瀧富士美術賞第38期受賞者の画家シュ・ニンさんに、「クレーレ熱海ゆがわら工房」に滞在して陶板のパブリックアート作品を造って頂き、上野駅の交通総合文化展展示を行いました。

④ 文化庁主催「beyond 2020 プログラム」の認証獲得
2021年度はステンドグラス作品「ZOMEKI -悠久の二拍子-」の
認証申請を行い、承認されました。

⑤ パブリックアート 50周年記念誌発刊準備
2022年10月にパブリックアートを設置して50年を迎えることか
ら、記念誌を発刊するために、2021年度より企画を進めています。

(3) 「1%フォー・アート」のPR活動
交通総合文化展 2021において、1%フォー・アートの法制化の先行事
例として台湾の取り組みを、実際の街中の作品写真と共に展示し、理
解促進に努めました。また協会のホームページに「1%フォー・ア
ート」のページを新設し、必要性や海外8カ国の導入例、賛同者などを
掲載しました。

4. 出版・PR活動

(1) メディア対応の強化

交通総合文化展 2021の開催に関して初めてプレスリリースを発行し、
メディア掲載に結びました。従来はパブリックアート設置のプレスリリ
ースを発行してきましたが、2020年度の瀧富士基金の募集活動に続い
てのリリースの発行となりました。

また、新聞社の文化部や美術系専門紙誌にアプローチして、パブリック
アートや国際瀧富士美術賞について複数の掲載が図れました。

さらに芸術番組制作のテレビにアプローチして野見山暁治氏のテレビ
版「私の履歴書」でクレーレ熱海ゆがわら工房が取り上げられて、パ
ブリックアートのPRに結びました。

(2) 協会のホームページを改定し、トップページや英文サイトの充実、「1%
フォー・アート」ページの新設とともに、TwitterなどのSNSとの連動
強化を図り、問い合わせが増加、取材や掲載増に繋がっています。

5. 日本の文化芸術の普及振興を兼ねた国際交流促進事業

交通総合文化展の展示を通して、在日外国人を含め日本の自然や風土の素晴らしさを知ってもらうとともに、日本のさまざまな文化芸術を紹介しました。

II. 収益事業

1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

公共スペースに設置する陶板レリーフ、ステンドグラスなどのパブリックアート作品の制作について、各種のコンサルティングを行い、収入を得ました。

2. 不動産などの賃貸業

当協会が保有している不動産や、工房等（クレアーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房等）の施設を企業に賃貸し、収入を得ました。